

# リスクと機会

▶地政学視点・エネルギー構造の変化・労働需給

保土谷化学グループは、外部環境の変化を踏まえ、私たちの中長期の価値創造に影響を及ぼす重要な社会課題を特定し、それに関連するリスクと機会を抽出しました。これらのリスクと機会を明確化することで、取り組むべきマテリアリティを

| 外部環境認識                                                                                                                           | リスク                                                                          | リスクへの対応                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 地球環境                                                                                                                             | • 自然災害の激甚化による生産活動<br>への多大な影響(人・設備)                                           | <ul><li>・設備・機器の点検および補修</li><li>・作業標準等の教育実施</li><li>・各種訓練の実施、安否確認システムの活用</li></ul> |
| <ul> <li>地球環境問題の不確実性は、大きな経済問題に<br/>転じている。気温上昇について複数のシナリオを<br/>想定し、経営戦略としてレジリエンスを向上<br/>させることが必須であると認識</li> </ul>                 | <ul><li>保全コストの増大</li><li>環境未配慮による、サプライチェーンからの信頼性が低下</li></ul>                | <ul><li>省エネルギー・環境負荷物質削減に向けた環境目標の達成</li><li>ISO14001の全社統合等、環境マネジメントの推進</li></ul>   |
| ▶ COP (気候変動枠組条約締約国会議) の目標達成<br>に向けた取り組み                                                                                          | <ul><li>国内外のレギュレーション違反による、<br/>経済的損失</li><li>企業としての信用が低下</li></ul>           | <ul><li>レギュレーション遵守体制の構築</li><li>海外レギュレーションの改正の定期的なチェック</li></ul>                  |
|                                                                                                                                  | • <b>品質・安全性能の低下等による社会</b><br><b>的信用が失墜</b> 、または、事業の中断                        | ・品質・安全性能に関わるルールの<br>教育・周知徹底・チェック機能の強化                                             |
| 社会  • 社会的価値の台頭にいかに対応するかは、企業経                                                                                                     | •感染症拡大による、経済や事業活動<br>への多大な影響                                                 | <ul><li>調達先の複数化</li><li>感染症防止対策の運用徹底</li></ul>                                    |
| <ul><li>社会的価値の占領にいかに対応するから、企業経営における重要課題であると認識</li><li>▶地政学リスク</li><li>▶ AI、DXの台頭</li></ul>                                       | • 事業展開地域からの信頼性の低下<br>による事業活動の中断                                              | <ul><li>事業展開地域の持続的発展に<br/>貢献する活動の継続・強化</li></ul>                                  |
| ŶŶ                                                                                                                               | • 役職員の「仕事のやりがい」「働き<br>やすさ」の低下による、 <b>組織パフォー</b><br>マンスの低下                    | <ul><li>エンゲージメントのパルスチェック<br/>によるエンゲージメント向上施策の<br/>企画・実施</li></ul>                 |
| 人(会社と組織)                                                                                                                         | ダイバーシティ経営を推進できず、<br>組織能力、企業価値停滞                                              | • <b>能力重視・スキル重視</b> の人材活用                                                         |
| 課題であると認識  ▶ 先進国の少子高齢化、生産年齢人口減少  ▶ 女性の社会進出、ダイバーシティの高まり  ▶ 感染症対策など、健康に対する関心の一層の増大                                                  | •健康経営、労働安全衛生を推進<br>できず、組織能力、企業価値停滞                                           | • 役職員が <b>健康 • 安全</b> に活躍できる<br>環境の整備                                             |
| <ul><li>▶ 窓架正対束など、健康に対する関心の一層の増入</li><li>▶ 労働安全衛生マネジメントシステムへの要求継続</li><li>▶ ライフスタイルの多様化</li><li>▶ 人権の尊重と公正な労働慣行の一層の高まり</li></ul> | • ビジネスと人権にまつわる課題に<br>関心を払わないことにより、訴訟・<br>行政罰、レピュテーションの悪化、<br>人材流出を招く等のおそれが増大 | <ul><li>ビジネスと人権にまつわる課題の<br/>把握と適正な対応</li></ul>                                    |
| ガバナンス                                                                                                                            | • コーポレート・ガバナンスの高度化に対し迅速かつ機動的に対応できず、中期的に企業価値を棄損                               | <ul><li>東証プライム市場上場企業として、<br/>ガバナンスの向上・充実</li></ul>                                |
| <ul><li>企業におけるコーポレート・ガバナンス機能、<br/>コンプライアンス機能、リスクマネジメント機能の<br/>強化を継続的に図ることが重要課題であると認識</li></ul>                                   | 法令違反、不祥事等の発生により、<br>大きな損失や企業継続に支障                                            | •コンプライアンス徹底による、法令<br>違反、不祥事・不備等の未然防止                                              |
| <ul><li>▶コーポレートガバナンス改革の実践</li><li>▶上場企業における品質不正問題や内部統制上の<br/>重要な不備の発生継続</li><li>▶ 地政党担点・エネルギー構造の変化・労働素給</li></ul>                | ・リスク認識・評価が不十分なため、<br>適切なリスク軽減策が打てず、<br>大きな損失や企業継続に支障                         | <ul><li>幅広くかつ精緻なリスク認識・評価<br/>による、適切なリスク軽減策の実行</li></ul>                           |

特定しております。リスクに適切に対応し、また機会を活かしつつ、社会課題に取り組むことで、さらなる価値創造の実現につなげてまいります。

| 機会                                                            | 機会への対応                                                               |
|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| • <b>気候変動に対する緩和・適応製品</b> の<br>需要の拡大                           | • <b>気候変動緩和・適応製品</b> の開発・販売                                          |
| •環境負荷低減に寄与する製品の<br>需要の拡大                                      | <ul><li>水の清浄化等に関するビジネスの拡大</li><li>グリーンケミストリーの推進</li></ul>            |
| <ul><li>各国のレギュレーションに適合する<br/>製品の需要の拡大</li></ul>               | *各国のレギュレーションに適合する<br>製品の開発・販売                                        |
| • <b>品質・安全性能</b> の価値ある製品の<br>需要の拡大                            | • <b>品質・安全性能</b> の価値ある製品の<br>開発・販売                                   |
| •健康維持に貢献する製品の需要の拡大                                            | •健康維持に貢献する製品の開発・販売                                                   |
| • <b>事業展開地域のコミュニティから信頼</b> を<br>獲得し、事業の安定化による、<br>企業価値の増大     | • <b>事業展開地域のコミュニティ</b> との積極的な<br>交流・貢献                               |
| • 役職員の「仕事のやりがい」「働きやすさ」<br>向上させ、 <b>組織パフォーマンスを向上</b>           | を ・エンゲージメント向上施策の継続的実施、<br>パルスチェックにより施策効果の検証                          |
| <ul><li>ダイバーシティ経営に適切に対応し、<br/>組織能力向上、企業価値増大を実現</li></ul>      | •性別、出身等に関係なく能力・スキルのある<br>人材の積極的な採用・登用、各人材が最大限<br>その能力・スキルを発揮し得る環境の整備 |
| •健康経営、労働安全衛生に適切に<br>対応し、組織能力向上、<br>企業価値増大を実現                  | <ul><li>多様な役職員の健康増進施策の実施、役職員の活力向上、生産性向上、組織活性化</li></ul>              |
| • ビジネスと人権にまつわる課題に<br>適切に対処し、企業価値増大を実現                         | <ul><li>・人権侵害リスクの把握・評価、改善プロセスの確立。サプライチェーンの人権侵害リスクへ留意</li></ul>       |
| • モニタリングモデルに対応したコーポレート<br>ガバナンスを継続推進し、企業価値を増え                 |                                                                      |
| • <b>コンプライアンスの徹底</b> 、法令違反、<br>不祥事・不備等発生の未然防止を図り、<br>企業価値を増大  | • <b>コンプライアンス浸透</b> のための教育の継続推進、<br>コンプライアンス違反がある場合の処罰実施             |
| • リスク領域の損失を最小化すると同時に、<br>リスクと裏腹の関係にあるチャンスを発見し<br>事業機会・収益機会を拡大 |                                                                      |

### マテリアリティ

- 気候変動への対応
- 大気・水・土壌環境 の保全
- 製品・化学物質の 安全確保
- 製品の価値および 信頼性の向上
- 健康維持への貢献
- コミュニティへの 貢献
- 働きがいの向上
- ダイバーシティの 推進
- 健康経営、労働安全 衛生の推進
- 人権尊重理念の 実践
- コーポレート・ ガバナンスの充実
- コンプライアンスの 浸透
- リスクマネジメントの 徹底

# マテリアリティ

保土谷化学グループは、「SPEED 25/30」を策定する過程で、経営理念に基づいた事業活動からマテリアリティを特定し、具体的な数値目標を設定しました。私たちが特定したマテリアリティは、「SPEED 25/30」の基本戦略

STEP1.

社会への 影響が大きい 外部環境の 変化を特定

STEP2.

外部環境の 変化による事業 への影響を特定

STEP3.

保土谷化学が 解決に向け重点的 に取り組むべき 課題を特定

| 外部環境認識                | マテリアリティ                               | 2030年度のありたい姿                                                                       |  |
|-----------------------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|--|
|                       |                                       | • 農業生産性向上、土壌改良に貢献                                                                  |  |
|                       |                                       | ・水産資源減少対策として養殖に貢献                                                                  |  |
|                       | ● 気候変動への対応                            | • グリーンケミストリーの推進                                                                    |  |
|                       |                                       | *原単位および総量でのエネルギー、水資源の削減が進み、<br>社会に貢献している                                           |  |
| 地球環境                  | <ul><li>大気・水・土壌環境の保全</li></ul>        | *環境負荷削減 (CO2削減、化学物質排出抑制、<br>廃棄物削減等) を推進し、社会から評価されている                               |  |
|                       | XX X Laxxxovix L                      | *湖沼浄化による飲料水確保に貢献                                                                   |  |
|                       |                                       | <ul><li>化学物質に関する各国の規制法令を遵守し、</li><li>化学物質が適正に管理されている</li></ul>                     |  |
|                       | ● 製品・化学物質の安全確保                        | *環境や社会に貢献する製品を開発し普及させ、<br>お取引先様から評価されている                                           |  |
|                       | <ul><li>製品の価値および<br/>信頼性の向上</li></ul> | ・安全で高品質な製品の供給を継続し、お客様から<br>評価されている                                                 |  |
|                       |                                       | ・DXを支える (環境に優しい) インフラ材料の提供                                                         |  |
|                       |                                       | CSR調達方針に基づき、お取引先様とともに<br>CSR活動を推進する調達を実施している                                       |  |
| 社会                    | ● 健康維持への貢献                            | •感染症への対処に広く利用されている                                                                 |  |
|                       | <ul><li>コミュニティへの貢献</li></ul>          | *事業所における社会貢献活動を推進し、地域において<br>理解・評価されている                                            |  |
|                       | ●働きがいの向上                              | ・会社従業者が健康にいきいきと働いている                                                               |  |
|                       | • ダイバーシティの推進                          | <ul><li>ダイバーシティの推進と公平公正な人事処遇に<br/>より、職場が活性化し、グローバル人材が育っている</li></ul>               |  |
| A (Add to set settle) | <ul><li>健康経営、労働安全<br/>衛生の推進</li></ul> | <ul><li>ワークライフバランスが推進され、仕事と生活<br/>(育児・介護を含む)の両立が図られている</li></ul>                   |  |
| (会社と組織)               |                                       | •無事故・無災害を継続し、社会から信頼されている                                                           |  |
|                       | <ul><li>人権尊重理念の実践</li></ul>           | <ul><li>人権尊重の意識が徹底され、ハラスメントなどが<br/>発生していない</li></ul>                               |  |
| ガバナンス                 | ● コーポレート・<br>ガバナンスの充実                 | <ul><li>リスク回避の「守りのガバナンス」とアップサイド<br/>チャンス獲得の「攻めのガバナンス」を両立し、<br/>成長を持続している</li></ul> |  |
|                       | ● コンプライアンスの浸透                         | <ul><li>コンプライアンス意識が浸透し、変化する社会<br/>規範に対応している</li></ul>                              |  |
|                       | ● リスクマネジメントの徹底                        | <ul><li>●リスク領域の損失を最小化し、リスクと裏腹の関係にある<br/>チャンスを発見し、事業機会・収益機会に<br/>つなげている</li></ul>   |  |

の前提となっていることから、「SPEED 25/30」で策定した「2030年度のありたい姿」とともに、中長期的な事業課題として全社を挙げて取り組んでまいります。

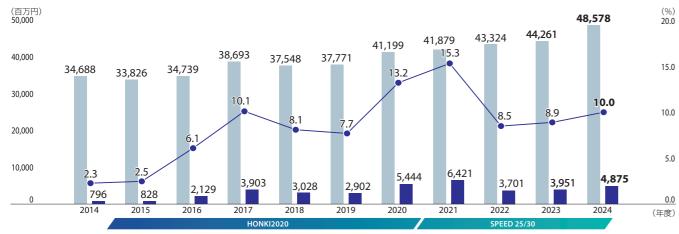
| 2025年度のKPI                                                                                              | 取り組み                                 | 2024年度実績                                                             | 貢献するSDGs                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| -                                                                                                       | • 過酸化物の農業資材への展開                      | <ul><li>水稲種子消毒用として農薬登録申請中</li></ul>                                  | 2 ****                                                          |
| _                                                                                                       | <ul><li>動物薬の拡販・普及</li></ul>          | <ul><li>拡販、普及の継続</li></ul>                                           | 14 AUD **                                                       |
| _                                                                                                       | <ul><li>バイオPTGの展開</li></ul>          | <ul><li>バイオPTGの販売促進</li></ul>                                        | 13 11171                                                        |
| <ul><li>エネルギー原単位:<br/>0.606kl/売上高百万円</li><li>CO2排出量: 4.34万t-CO2または<br/>原単位: 0.868t-CO2/売上高百万円</li></ul> | •省エネルギー・省資源の推進                       | <ul><li>横浜工場、南陽工場、筑波研究所で<br/>CO2フリー電力導入</li><li>ICP活用</li></ul>      | 7 ::::::::::::::::::::::::::::::::::::                          |
| *SOx排出量:ゼロ継続<br>*産業廃棄物発生量:前年度発生量以下                                                                      | • 環境負荷削減の推進                          | <ul><li>SOx排出量:ゼロ継続→達成</li><li>廃棄物発生量:前年度以下→未達</li></ul>             | 12 113 115 14 115 11 14 115 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 |
| _                                                                                                       | • 過酸化水素の新用途展開                        | ● 新規分野への用途展開検討                                                       | 6 *******                                                       |
| •レギュレーション違反:ゼロ                                                                                          | • 化学物質管理の充実                          | 法規制管理の徹底により違反ゼロを継続                                                   | 12 (###)<br>COO                                                 |
| _                                                                                                       | ・次世代テーマ開発、新製品開発                      | <ul><li>次世代の基盤技術の構築、新事業の創出</li></ul>                                 | 9 :::::::                                                       |
| •品質トラブル:ゼロ                                                                                              | ・安全で高品質な製品の供給                        | ● 品質トラブルゼロ→達成                                                        | 12 3188<br>CO                                                   |
| _                                                                                                       | •電子デバイス材料、電子デバイス機器材料の<br>拡大          | ● 新規材料の開発                                                            | 7 can-make                                                      |
| _                                                                                                       | <ul><li>サプライチェーンにおけるCSRの推進</li></ul> | ●「調達ガイドライン実施状況調査」の実施                                                 | 8 and 17 and 27 &                                               |
| _                                                                                                       | ・ 過酸化水素誘導体、ホスゲン誘導体等の展開               | ● 飲料ボトル、内視鏡除菌向け拡大                                                    | 3 =======                                                       |
| • 貢献活動数:前年度以上                                                                                           | • 地域貢献活動の推進                          | <ul><li>近隣高等学校からの工場見学ほか、環境支援<br/>活動を実施:前年度以上達成</li></ul>             | 4 ************************************                          |
| •エンゲージメントスコアの向上:<br>スコアの段階的向上                                                                           | •エンゲージメント向上の継続的な施策実施                 | <ul><li>エンゲージメントサーベイの実施と結果の還元</li></ul>                              | 8 :::::                                                         |
| •女性管理職比率:13%                                                                                            | ・人材育成・活性化プログラムの推進                    | <ul><li>女性従業員を対象とした研修の実施・部門長<br/>を対象とした研修を実施</li></ul>               | 5 iii                                                           |
| ・健康経営優良法人:認定<br>・有給休暇取得率の向上<br>・リフレッシュ休暇取得率の向上                                                          | <ul><li>健康経営の推進</li></ul>            | <ul><li>健康経営優良法人認定を継続</li></ul>                                      | 3 110000 8 8 11000 A                                            |
| <ul><li>休業災害:ゼロ</li></ul>                                                                               | • 労働安全衛生、保安防災の徹底                     | ●休業災害ゼロ→達成                                                           | 3 12224 8 21222<br>                                             |
| ●FTSE Russell評価 (人権と地域社会: 4.0)                                                                          | <ul><li>人権啓発活動の推進</li></ul>          | <ul><li>人権教育の継続実施</li><li>FTSE Russell評価(人権と地域社会: 3.0)</li></ul>     | 8 and 16 man                                                    |
| -                                                                                                       | <ul><li>コーポレート・ガバナンスの向上</li></ul>    | <ul><li>長期間となった会計監査人の交代</li><li>個人株主を意識した株式分割等を実施</li></ul>          | 8 HINT<br><b>11</b> 9 HINT                                      |
| _                                                                                                       | <ul><li>コンプライアンスマインドの浸透</li></ul>    | • コンプライアンス研修の継続実施<br>(全役職員向け 年4回、グループ会社役員向け<br>年1回、取締役および執行役員向け 年1回) | 12 ###<br>CO                                                    |
| _                                                                                                       | • 幅広く精緻なリスク認識・評価と適切な<br>リスク軽減策       | <ul><li>リスクマネジメント委員会でリスク認識の<br/>共有化、リスク軽減策の検討を実施</li></ul>           | 17                                                              |

# #:

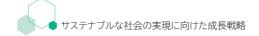
# 中期経営計画の振り返り

|           | "HONKI2013"(2011年度~2013年度)<br>再建の年(2014年度)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | "HONKI2020"<br>(2015年度~2020年度)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ビジョン・位置付け | 「創業100周年」(2016年)に「グローバル・ニッチ分野で、オンリーワン・ナンバーワン素材を提供し続ける企業」を目指し、その実現のために、2013年度までには、将来の拡大に向けた整備を実施2013年度目標:連結売上高500億円、連結営業利益50億円、営業利益率10.0%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 2020年度に「グローバル・ニッチ分野でオンリーワン・ナンバーワンのスペシャリティ製品を創出し続ける企業」を目指し、その実現のために、将来の拡大に向けた整備を実施2020年度目標:連結売上高500億円、連結営業利益50億円、営業利益率10.0%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 計画の<br>骨子 | 【骨子】  ● 各事業を4種類に分類し、基盤事業の強化を図りながら、将来の事業を育成・強化 【施策】  ● 会社を支える基盤事業の強化  ● 将来の成長に向けた事業拡大/新製品創出を推進  ● グローバル運営体制の一層の強化  ● CSR (企業の社会的責任)の取り組みの強化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 【骨子】  ●各事業を4種類に分類し、基盤事業の強化を図りながら、将来の事業を育成・強化 【施策】  ・競争力を取り戻し「安定した収益基盤の確保」-基盤事業  「次世代の柱」を確立-成長事業  ●「新たな付加価値」の創出による事業領域の拡大-育成事業、新製品創出  ・グローバル運営体制の一層の強化、人材の育成  ●CSR(企業の社会的責任)の取り組みの強化                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 振り返り      | <ul> <li>■基盤事業<br/>過酸化水素およびその周辺製品の強化を図るため、<br/>日本パーオキサイド(株)を合併し、郡山工場のコスト削減を推進</li> <li>●成長事業<br/>有機EL 材料事業のさらなる展開を図るために、SFC CO., LTD.(韓国)<br/>の生産体制を増強</li> <li>●育成事業<br/>既存製品の知見を活かした事業展開として、プロジェクトを通してカラー用CCA、トナー周辺材料や新規ポリオールを開発</li> <li>●新製品創出<br/>「新規テーマ探索プロジェクト」を発足し、産学官等と"環境"や"エネルギー"等の研究テーマへの取り組みを実施</li> <li>●主な設備投資<br/>有機EL分野を中心に、約100億円の設備投資を実施</li> <li>●グローバル体制の強化<br/>2012年5月にグループの本社機能を集約し、グループー体運営を推進。また、韓国・上海に現地法人を設立し営業力を強化</li> </ul> | 基盤事業:アルミ着色用染料やホスゲン誘導体は、設備を新設する等、後の展開への整備が進行     育成事業:カラーフィルター用染料含め次期柱の育成を継続。異常気象を背景に農業用過酸化物が伸長     成長事業:有機ELが売上高・収益面で牽引、トップ事業に成長     新製品開発:有機EL、アグロサイエンス事業を中心に、2020年度の新製品売上高は34億円(SFC社を除く)     主な設備投資     ・全体で101億円の設備投資を実施・アルミ着色用染料設備の新設・有機EL(SFC社)で、製造設備・研究設備の増強等     ヴローバル運営体制の一層の強化     ・有機ELの主要市場の韓国に「開発拠点」と「製造拠点」を設置したことで、R&D・生産の面でもグローバル化が進展・ドイツ・デュッセルドルフに現地法人を設立し、欧州での営業力を強化・グローバルな原料調達を推進し、チャイナリスク等への対応を強化     CSRの取り組み強化     ESG経営、SDGs達成への貢献を推進し、外部評価も向上 |
| 成果        | <ul> <li>●将来への成長に向けた事業拡大を実施し、新製品の創出に向けての種まきを実施</li> <li>●「事業環境の変化」「原燃料価格の高騰」「販売数量・単価の下落」等により、基盤事業が痛み、保土谷化学グループの収益基盤は著しく悪化。特に2012年度・2013年度は、連結の純利益で2期連続の赤字となり、危機的な状況となった</li> <li>● 2014年度は、「再建の年」と位置付け、全利益項目の黒字化を必達目標とし、全社員一丸となって取り組んだ結果、達成</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    | 連結売上高<br>有機EL 事業の拡大等により、期間中は年4%で成長したが、目標の<br>500億円は未達成     連結営業利益<br>PCR診断キット用材料の特需により利益が増加し、目標を達成     連結営業利益率<br>有機EL 事業や、PCR診断キット用材料が貢献し、目標を達成                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 課題        | <ul><li>●安定した収益基盤の確保に向けた、拡販、コストダウン、お客様の<br/>ニーズに合う製品の上市</li><li>事業拡大と新製品創出の成果刈り取り</li><li>海外事業拠点のさらなる活用および拡充</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <ul><li>有機EL事業に続く新たな成長ドライバーの探索と育成</li><li>外部環境の変化に対応可能な事業ポートフォリオの構築</li><li>保土谷化学グループのイノベーションの歴史→P.11</li><li>「開発・製造・販売」の三位一体活動のさらなる強化</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

### 業績推移



■ 売上高(左) ■ 営業利益(左) -●-営業利益率(右)



# 中期経営計画「SPEED 25/30」(2021年度~2030年度)

VISION

スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれるポートフォリオと 環境に優しいモノづくりで、持続可能な社会の実現に貢献する企業

メッセージ

### 保土谷化学グループは、

- S スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティにあふれる
- P ポートフォリオを構築し
- E エンゲージメントの向上による
- E ESG経営の推進と
- D DXによる競争力強化で

「目指す姿」(2025年度)
「ありたい姿」(2030年度)に
スピーディーに変わってまいります

|                                                                                | <del>(</del> | <b>呆土谷化学グループの「2</b> 0                                                                                     | )25年度までの目指す姿」                                                                      |                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業強化                                                                           | Ł            | 新製品創出                                                                                                     | 生産性向上                                                                              | 経営基盤強化                                                                             |
|                                                                                | :            | 「事業戦略のロードマップ」                                                                                             |                                                                                    | ●組織能力の向上                                                                           |
| <ul><li>「戦略事業」「基盤<br/>それぞれの持続的<br/>実現</li><li>選択と集中を進め<br/>ポートフォリオを相</li></ul> | o<br>新たな     | <ul><li>戦略事業の技術革新を推進し、<br/>事業拡大に貢献</li><li>研究開発テーマの早期事業化</li><li>新たな領域展開のために研究<br/>開発テーマの持続的な創出</li></ul> | <ul><li>新製品を速やかに立ち上げる<br/>体制の完備</li><li>環境に優いり製品を、常に高い<br/>生産性で、安全・安定に生産</li></ul> | <ul><li>働きがいの向上</li><li>社会的価値の台頭への対応</li><li>財務面でのさらなる改善</li><li>業務効率の向上</li></ul> |
|                                                                                | 成長に          | 資する「戦略投資(事業 <m&a a<="" td=""><td>含む&gt;・設備・IT・インフラ)」の</td><td>実行</td></m&a>                               | 含む>・設備・IT・インフラ)」の                                                                  | 実行                                                                                 |
|                                                                                |              | 「サステナビリティの打                                                                                               | 推進」「DXの推進」                                                                         |                                                                                    |

2030年度のありたい姿 事業強化 規模拡大 効率化 従業員視点 社会的視点 株主視点 事業ポートフォリオが グローバル市場に 高い生産性を SDGs達成に貢献し、 長期に継続して 働きがいが 適切に 新製品が継続して 実現している 向上している 環境に優しいを 安定的な配当を 構成されている 創出されている 実現している 実現している DXの推進

# 経営目標の進捗

|       |                           | 2021年度実績                                                        | 2022年度実績                                                        | 2023年度実績                                                        | 2024年度実績                                                        | 2025年度経営目標                                                      |
|-------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
|       | 売上高                       | 418億円                                                           | 433億円                                                           | 442億円                                                           | 485億円                                                           | 500億円                                                           |
| 財務    | 営業利益                      | 64億円                                                            | 37億円                                                            | 39億円                                                            | 48億円                                                            | 75億円                                                            |
| 財務目標  | 営業利益率                     | 15.3%                                                           | 8.5%                                                            | 8.9%                                                            | 10.0%                                                           | 15%                                                             |
|       | ROE                       | 8.1%                                                            | 5.3%                                                            | 5.5%                                                            | 6.6%                                                            | 9%                                                              |
|       | CO2排出量(CO2排出原単位)          | 49,247t-CO <sub>2</sub><br>(1.176t-CO <sub>2</sub> /<br>売上高百万円) | 45,722t-CO <sub>2</sub><br>(1.055t-CO <sub>2</sub> /<br>売上高百万円) | 35,649t-CO <sub>2</sub><br>(0.805t-CO <sub>2</sub> /<br>売上高百万円) | 31,661t-CO <sub>2</sub><br>(0.652t-CO <sub>2</sub> /<br>売上高百万円) | 43,400t-CO <sub>2</sub><br>(0.868t-CO <sub>2</sub> /<br>売上高百万円) |
| 非     | エネルギー原単位(売上高・百万円当たり)      | 0.698kl                                                         | 0.636kl                                                         | 0.495kl                                                         | 0.466kl                                                         | 0.606kl                                                         |
| 非財務目標 | 産業廃棄物発生量                  | 2,746t                                                          | 3,477t                                                          | 2,523t                                                          | 3,076t                                                          | 前年度発生量以下                                                        |
| 目標    | ESG評価スコア (FTSE Russell評価) | 2.7                                                             | 3.0                                                             | 3.6                                                             | 3.5                                                             | 3.7                                                             |
|       | エンゲージメントスコア               | _                                                               | _                                                               | _                                                               | _                                                               | スコアの段階的向上                                                       |
|       | 女性管理職比率                   | 10.8%                                                           | 11.0%                                                           | 11.3%                                                           | 12.1%                                                           | 13%                                                             |
|       |                           |                                                                 |                                                                 |                                                                 |                                                                 |                                                                 |

### 中期経営計画「SPEED 25/30 | (2021年度~2030年度)

### 「SPEED 25/30」 2024年度の進捗

中期経営計画「SPEED 25/30」の4年目となる2024年度は、雇用・所得環境の改善等による個人消費の持ち直しやインバ ウンド需要の回復を受けて、緩やかながら回復傾向を示しました。一方で、国際情勢の不安定化に伴う資源価格の高止まり、 為替市場における円安基調の継続、さらにはインフレ進行による物価の上昇が、企業のコスト構造に影響を及ぼしました。

そのような中、環境と人に優しいアルミ着色用染料の需要拡大を踏まえた供給体制を強化するため、保土谷化学の国 内製造拠点における製造設備の増強を進めることを決定しました。

### 2024年度 事業面での進捗

| セグメント | サブセグメント         | 事業強化                                                                                                                            | 新製品創出生産性向上                                                                                                                                                                                                   |                                            | 実                            | 績                 |
|-------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------|-------------------|
| ピクスンド | りりピクスンド         | 事未強化<br>                                                                                                                        | 机袋吅剧山                                                                                                                                                                                                        | 土庄江川工                                      | 売上高構成比                       | 営業利益構成比           |
| 機能性色素 | 有機EL·<br>先端材料事業 | <ul> <li>顧客との関係強化、技術紹介</li> <li>新規材料での用途拡大</li> <li>国内評価拠点強化</li> <li>新バイオ棟 (BioPark) 稼働による事業拡大</li> <li>韓国2工場の新設・稼働</li> </ul> | <ul> <li>有機ELの開発推進</li> <li>新規テーマの探索を推進         <ul> <li>リチウムイオン電池材料(有機正極材料)</li> <li>ペロブスカイト型太陽電池材料             <ul> <ul> <li>一ボか外線吸収材料</li> </ul> </ul></li> <li>新製品開発に資する試作専用設備の設置</li> </ul> </li> </ul> |                                            | 原単位<br>51.8%<br>(251.4億円)    | 79.0%<br>(38.3億円) |
|       | 色素材料事業          | •環境対応型アルミ着色用染料の上市                                                                                                               | <ul><li>環境対応型アルミ着色用染料の開発推進</li></ul>                                                                                                                                                                         | • 環境対応型アルミ着色用<br>染料の生産対応工事開始               | スト                           |                   |
| 機能性樹脂 | 機能化学品事業         | ◆新規バイオPTGの上市・拡販                                                                                                                 | <ul><li>特殊グレードの開発</li><li>ホスゲン誘導体ベンチスケール<br/>設備の設定</li></ul>                                                                                                                                                 | <ul><li>ホスゲン誘導体生産設備<br/>の増設検討と推進</li></ul> | ダ<br>ウ<br>ン 17.4%<br>(84.5億) | ▲1.1%<br>(▲0.5億円) |
|       | 建築材料事業          | • 次世代塗膜防水材の拡販                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                              |                                            | $\downarrow$                 |                   |
| 基礎化学品 | パーオキサイド事業       | •過酢酸(食品添加物)の用途拡大                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                              |                                            | 15.4%<br>(75.1億)             | 8.5%<br>(4.1億円)   |
| アグロ   | 農薬事業            | <ul><li>農業用過酸化物の事業拡大</li></ul>                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                              | •酸素供給剤の生産能力の<br>増強                         | 11.3%<br>(55.1億)             | 6.2%<br>(3.0億円)   |
| 物流関連  | 物流関連事業          |                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                              |                                            | 3.7%<br>(17.8億円)             | 7.2%<br>(3.5億円)   |

### 2024年度 主要な施策の進捗

| 組               | <b>Y</b> 営基盤強化                                                 | 2024年度実績                                                                                                                                                                                                                     | 2025年度非財務目標                                                                                                                                                        |
|-----------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 戦略投資            |                                                                | •韓国REXCEL 忠州キャンパス 第2工場、陰城キャンパス 新工場<br>稼働開始                                                                                                                                                                                   | _                                                                                                                                                                  |
| エンゲージメント<br>の向上 | <ul><li>健康経営の推進</li><li>ダイバーシティ人材の活用</li></ul>                 | <ul><li>・健康経営優良法人 5年連続認定</li><li>・フレックス制度の適用拡大(試験導入)</li><li>・「本の要約サービス」導入</li><li>・従業員株式給付制度の対象者拡大決定</li></ul>                                                                                                              | ・エンゲージメントスコアの段階的向上     ・女性管理職比率:13%                                                                                                                                |
| サステナビリティ<br>の推進 | CO2排出量削減     エネルギー原単位の削減     産業廃棄物発生量削減     電力使用量削減     ESGの推進 | <ul> <li>CO2排出量削減:31,661t-CO2 (0.652t-CO2/売上高百万円)</li> <li>エネルギー原単位の削減:エネルギー:0.466kl/売上高百万円</li> <li>産業廃棄物排出量削減:3,076t</li> <li>CO2フリー電力使用(横浜工場、南陽工場、筑波研究所)</li> <li>ICPの活用</li> <li>ESG評価スコア(FTSE Russell評価):3.5</li> </ul> | <ul> <li>CO2排出量削減:43,400t-CO2(0.868t-CO2/売上高百万円)</li> <li>エネルギー原単位の削減:0.606kl/売上高百万円</li> <li>産業廃棄物発生量削減:前年度発生量以下</li> <li>ESG評価スコア(FTSE Russell評価):3.7</li> </ul> |
| DXの推進・<br>業務効率化 |                                                                | <ul><li>●ERPシステムの更改</li><li>業務効率化の推進による業務時間削減</li><li>●RPA 人材育成</li><li>●押印業務の効率化</li></ul>                                                                                                                                  | _                                                                                                                                                                  |

### ■戦略投資・新たな事業ポートフォリオの構築

### 機能性色素セグメント:アルミ着色用染料 製造設備の増強に着手

奥野製薬工業株式会社との共同開発によるアルミ着色用染料に関して、今後 の需要拡大を踏まえた供給体制の増強計画の検討に着手いたしました。

軽量で耐食性および強度に優れ、リサイクルしやすいアルミニウムは、スマート フォンや電子機器などで広く利用され、そのカラーアルマイト染料の需要は拡大し ております。また環境と人に優しい染料として、重金属を用いずに優れた染色性 を持つ「メタルフリー染料」のニーズが一層高まっていることから、保土谷化学の 国内生産拠点における製造設備の増設を進めてまいります。



アルミ着色用染料

### 「SPEED 25/30」2025年度以降の取り組み

中期経営計画「SPEED 25/30」は折り返し地点を迎え、「2025年度までの目指す姿」を示すフェーズ1の最終年度としての 取り組みを進めております。

2025年度の経営目標については、当初策定した利益目標との乖離が生じている状況です。引き続き、国際情勢の不安定 化による資源価格の高騰などが企業のコスト構造に大きな影響を与えており、製品価格へのコストの転嫁が追いつかない部 分もあるため、利益確保が当初の想定よりも困難な状況となっております。

今後、「2030年度のありたい姿」を示すフェーズ2に向け、事業ポートフォリオの再構築、新規開発品の上市、一層の業務 効率化およびDXの推進を通じて、収益力の向上を図ります。これにより、企業価値の向上と持続可能な成長を実現するべ く、全社一丸となって取り組んでまいります。

### 事業面での取り組み

| セグメント | サブセグメント         | 事業強化                                                                                                 | 新製品創出                                                                                       | 生産性向上                                        |     |
|-------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----|
|       | 有機EL·<br>先端材料事業 | グローバルな技術サービス拠点の最適化<br>(技術紹介・顧客との関係性強化)     グローバル事業に資する人材の育成&確保     半導体用材料への展開を推進                     | 次世代技術への対応     有機EL材料の開発推進     新規テーマの探索を推進     ーリチウムイオン電池材料 (有機正極材料)     一有機太陽電池材料 (ペロブスカイト) | • 専用設備の設置 (安定的生産基盤確保)                        |     |
| 機能性色素 |                 | カラーフィルター材料の拡販     新規機能性色素分野への展開                                                                      | <ul><li>新規テーマの探索を推進<br/>一近赤外線材料・新製品開発に資する<br/>試作専用設備の設置</li></ul>                           |                                              | 原単位 |
|       | 色素材料事業          | ●環境対応型アルミ着色用染料の上市・拡販                                                                                 | • 環境対応型アルミ着色用染料の開発推進                                                                        | <ul><li>環境対応型アルミ着色用染料の供給<br/>体制の確立</li></ul> | 削減  |
|       |                 | <ul><li>天然色素の用途開拓(食用以外)</li><li>ハラール色素・天然色素の海外新規市場開拓</li></ul>                                       |                                                                                             |                                              | のコス |
| 機能性樹脂 | 機能化学品事業         | <ul><li>新規バイオ PTG の上市・拡販</li><li>ホスゲン誘導体のグローバル拡販強化</li></ul>                                         | <ul><li>特殊グレード品の開発</li><li>新規ウレタン材料の開発推進</li></ul>                                          | ・ホスゲン誘導体生産設備の増設                              | トダ  |
|       | 建築材料事業          | <ul><li>次世代塗膜防水材の拡販</li></ul>                                                                        |                                                                                             |                                              | ウ   |
| 基礎化学品 | パーオキサイド事業       | <ul><li>・工業薬品分野での拡販</li><li>・過酢酸(殺菌・食添用途)での拡販</li></ul>                                              | <ul><li>農畜資材の用途開発</li></ul>                                                                 | <ul><li>計画的な設備更新</li></ul>                   |     |
| アグロ   | 農薬事業            | <ul><li>新規原体導入による事業拡大</li><li>農業用過酸化物の事業拡大</li><li>新規緑地事業での需要開拓</li><li>開発・販売における顧客との関係性強化</li></ul> | <ul><li>酸素供給剤を用いた新農業資材の開発</li><li>過酸化物の農薬への応用検討</li></ul>                                   |                                              |     |
| 物流関連  | 物流関連事業          | ●ISOタンクコンテナ保管事業の拡大<br>●DXアイテムの導入による物流効率化の推進                                                          |                                                                                             | •IT活用による自動化・運用の効率化検討                         | f   |

### 主要な施策の取り組み

| 経営基盤の強化     | 内容                                                                                                                                                                                     |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 戦略投資        | <ul><li>ホスゲン生産設備増強</li><li>・筑波研究所、クリーンルーム棟建設および蒸着機増設</li><li>・定加いま着色用染料、環境対応型アルミ着色用染料の設備増強</li><li>・韓国 忠州キャンパス 第2工場、陰城キャンパス 新工場の設備増設</li></ul>                                         |
| エンゲージメントの向上 | ・従業員株式報酬制度の対象者拡大、混合型ジョブ型制度の導入検討、各種新規施策の実行による人的資本投資の拡充     ・フレックス制度の適用拡大     ・「本の要約サービス」     ・健康経営の推進     ・ダイバーシティ人材の活用                                                                 |
| サステナビリティの推進 | ●ESGの推進 ●CO₂排出量削減 ●電力使用量削減 ●産業廃棄物発生量削減                                                                                                                                                 |
| DXの推進・業務効率化 | <ul> <li>保土谷化学グループが蓄積しているデータの利活用</li> <li>業務効率化のさらなる推進 (業務効率化推進PJ)</li> <li>研究開発におけるマテリアルズ・インフォマティクスの活用</li> <li>RPA 化の推進および DX 教育とリーダー育成</li> <li>生産設備の IoT 化による、安定稼働の取り組み</li> </ul> |

### 新たな事業ポートフォリオ構築のイメージ

2025年度までの重要施策を実行し、新たな事業領域に発展させることを目指し、「事業戦略のロードマップ」に示した「目指す分野」 への展開を加速します。 保土谷化学グループのイノベーションの歴史→P.11 事業戦略のロードマップ→P.32

### 現在の事業領域 有機EL、機能性色素、 イメージング材料 PTG、接着剤、防水材、 ホスゲン誘導体 過酸化水素、過酸化水素誘導体 除草剤、殺虫剤 危険物物流

新たな事業領域 先端電子デバイス用材料 バイオ医薬用材料、 環境対応型染料 環境対応型ポリオール 環境重視型農業資材 高付加価値型危険物物流

目指す分野 電子・情報 モビリティ 環境・エネルギー ライフサイエンス 農業・食品

# 財務戦略



# 「稼ぐ力」の強化でROE向上と 株主還元を推進していく

常務執行役員 村上 康雄

保土谷化学グループは、中期経営計画「SPEED 25/30」においてROE9%の実現を目指しており、2025年度末(2026年3月期)にはその中間地点である「フェーズ1」の終了を迎えます。過去4年間で得られた営業活動によるキャッシュ・フロー(212億円)を、当社グループの成長ドライバーである機能性色素セグメントを中心とした事業等への成長投資(211億円)に支出しながらも、D/Eレシオは0.2倍程度を維持しており、当社の財務の健全性や安全性は高い水準にあります。またこの間、DOE(株主資本配当率)の向上を意識した配当政策に基づき、1株当たりの年間配当額を2020年度の25円から2024年度の45円に増加させています。さらに、5期連続増配を目指し、2026年3月期は年間50円と予想しています。

「フェーズ1」の最終年度である2025年度については、売上高においては当初目標と同水準の業績予想を掲げておりますが、営業利益については大きく乖離が見込まれます。この状況を踏まえ「フェーズ1」を総括し課題の洗い出しを行うとともに、「フェーズ2」の計画策定に反映させていきます。具体的には「成長分野へのさらなる資源投入」や「DXを通じた生産性向上」「環境対応強化」などを通じて経営基盤のさらなる強化を図り、「稼ぐ力」を一層強化してROE向上を目指します。

今後も「成長投資」「株主還元」「有利子負債コントロール」の3つのバランスを堅持しながら、高いROEを実現できる高効率経営を目指します。そのためには、株主還元の拡充に加え、新たな価値を創造し、将来の企業価値の向上につなげていくため、現在、一定の安全性を維持しているネット有利子負債や株主資本、株主資本比率をさらに有効に活用するなど、財務・資本施策を実践し、当社グループの継続した成長を加速してまいります。

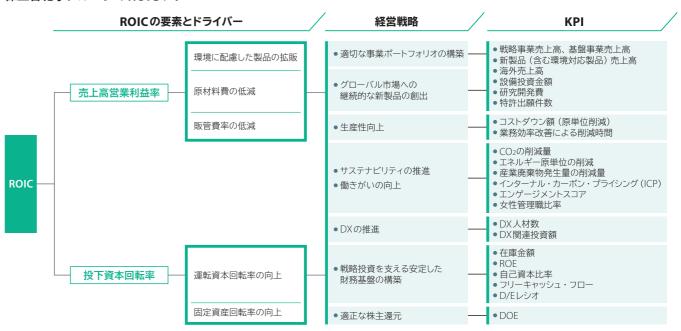
※ 当社は2025年4月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2025年4月1日以前の1株当たり配当金につきましては、株式分割調整後の数値を表示しています。

### ■中期経営計画の目標達成のための財務戦略(経営資源配分)

中期経営計画「SPEED 25/30」の「2030年度のありたい姿」に掲げる「適切な事業ポートフォリオの構築」に向けた既存事業への投資、「グローバル市場へ向けた新製品の開発」に資する知的財産投資、「高い生産性の実現」に向けたあらゆる効率化を目的とした投資、人材拡充のための人的資本への投資などについて、社内で設定したKGI(Key Goal Indicator: 重要目標達成指標)とKPI(Key Performance Indicator: 重要業績評価指標)を把握・管理しております。また、各部門、各グループ会社におけるKGIやKPIがグループ全体の成長につながることをROICツリーにて認識し、それぞれのKPIについては、毎年その定量評価と定性評価を実施し、それぞれの施策への経営

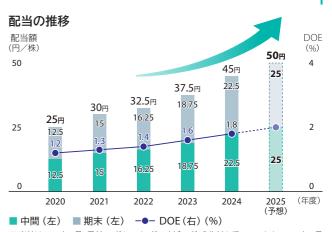
資源の配分を決定し、実行しています。これまでは、韓国拠点での既存事業・新規事業を中心とした「機能性色素セグメント」への経営資源の配分を重点的に実施しました。今後は、国内を主とした成長投資を積極的に行い、「適切な事業ポートフォリオの構築」を加速させていきます。加えて、非財務面における「コストダウン額(原単位削減)」「CO2削減量」「DX人材数」といったKPIも当社の将来の成長につながる重要な要素であり、適切な経営資源の配分を行っています。「SPEED 25/30」は、2030年度までの中期計画ですが、年度ごとにKGIやKPIを適切に評価、検証することで、掲げた目標の達成を加速してまいります。

### 保土谷化学グループのROICツリー



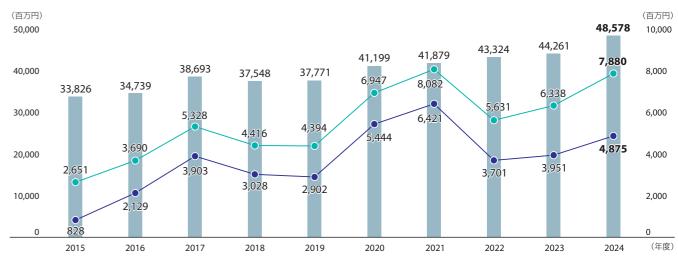
### 資本政策および株主還元方針

資本政策においては、成長投資・株主還元・内部留保のバランスを重視し、企業価値向上に資する資本効率の最大化を目指しています。具体的には、DOE (株主資本配当率)を念頭に安定的な配当を継続しつつ、PBRや資本コストを意識した資本最適化に取り組んでいます。自己株式については、将来的な報酬制度での活用や、消却・処分も視野に、保有・取得の検討を柔軟に進めています。財務戦略の明確な説明責任を果たすことで、株主・投資家との信頼関係を強化し、中長期の企業価値最大化に向けた還元方針を推進してまいります。



※ 当社は2025年4月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っています。2025年4月 1日以前の1株当たり配当金につきましては、株式分割調整後の数値を表示しています。

### 売上高・営業利益・EBITDA (営業利益+減価償却費)



■ 売上高 (左) --- 営業利益 (右) --- EBITDA (営業利益+減価償却費) (右)

# 財務・非財務ハイライト(連結)

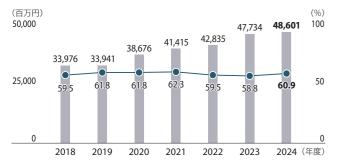
### 売上高、営業利益、営業利益率



■ 売上高(左)■ 営業利益(左)−●- 営業利益率\*(右)※営業利益÷売上高(単年)

2024年度は、基礎化学品での減少がありましたが、機能性色素、機能性樹脂、アグロサイエンス、物流関連における増加および円安効果により、売上高は、前期比で4,316百万円増(9.8%増)の48,578百万円、営業利益は、前期比924百万円増(23.4%増)の4,875百万円となりました。

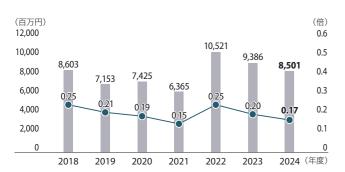
### 自己資本、自己資本比率



■ 自己資本(左) -●-自己資本比率\*(右)
\*\*自己資本÷総資産

自己資本比率は、60%前後で安定的に推移しております。今後とも 事業から得られる利益を中心に自己資本を蓄積し、さらなる経営基 盤の安定化を図ってまいります。

### 有利子負債、D/Eレシオ



■ 有利子負債(左) -●- D/Eレシオ\*(右) ※有利子負債÷自己資本

有利子負債は、約定弁済により減少しており、2024年度のD/Eレシオは、0.17倍へ低下しました。成長に資する設備投資等とのバランスをとりつつ、財務の健全性を維持してまいります。

### ROE, ROA

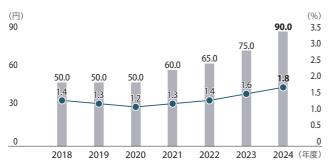


-●- ROE\*1 -●- ROA\*2

※1 当期純利益÷自己資本 ※2 当期純利益÷総資産

2024年度は、利益の増加によりROE・ROAともに向上しました。今後も利益の拡大を目指しつつ、資産の効率化を実行してまいります。

### 1株当たり配当金、DOE



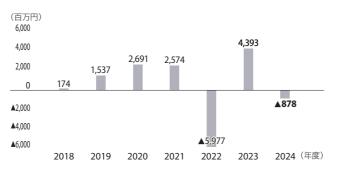
■ 1株当たり配当金(左) -●-DOE\*(右)

※ 配当総額 ÷ 株主資本 (連結)

業績動向・将来の事業展開・不測のリスク等を総合的に勘案し、特に、「株主資本配当率(DOE)」を意識し、今後とも安定的・継続的に、株主の皆様への適正な還元を実施してまいります。

※ 1株当たり配当金は、2025年4月1日付の株式分割前の株式数を基準としております。

### フリーキャッシュ・フロー



■ フリーキャッシュ・フロー\* ※営業活動のCF+投資活動のCF

2024年度は、継続した設備投資の実行と共に、資金の有効活用を目的とする定期預金の預入等の拡大により、フリーキャッシュ・フローは減少に転じました。引き続き、営業活動・投資活動をバランスよく実行し、将来の成長につなげてまいります。

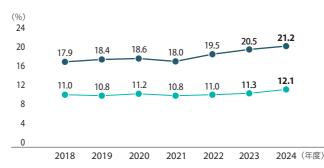
### 設備投資金額、研究開発費



■ 設備投資金額 ■ 研究開発費

保土谷化学グループの成長ドライバーである機能性色素セグメント における設備投資、研究開発が中心となっており、将来の成長に資 する投資や活動を継続して実施してまいります。

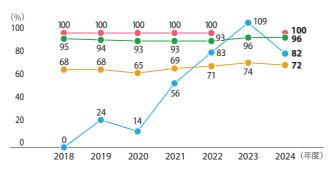
### 女性従業員比率、女性管理職比率



-●-女性従業員比率 -●-女性管理職比率

保土谷化学グループでは、重要施策の一つとして、女性の活躍を推進しております。2018年度以降は女性管理職比率10%以上を達成し、2025年度には13%以上を目標としてまいります。女性管理職比率の向上に向け、さまざまな施策を実施しております。

### 有給休暇取得率、リフレッシュ休暇取得率、育児休業取得率



-●- 有給休暇取得率(個別) -●- リフレッシュ休暇取得率(個別) -●- 育児休業取得率(男性) -●- 育児休業取得率(女性)

保土谷化学の年次有給休暇取得率は過去3年間70%以上を維持しているのに加え、年次有給休暇とは別に、5営業日連続で取得できる「リフレッシュ休暇制度」を2018年度から設けており、従業員の心身のリフレッシュに活用されております。また、育児休業取得率については、社内啓発活動を実施し、男性の取得率は2024年度実績で82%です。 ※育児休業取得率(女性)は、2023年度対象者はおりませんでした。

### CO2排出量、CO2排出原単位(国内)

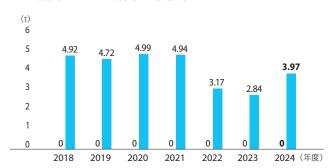


■ CO2排出量(左) ■ CO2排出原単位(右)

保土谷化学が排出する温室効果ガス (GHG) のほとんどが CO2です。 2024年度の CO2排出量は、設備稼働の増加に伴いエネルギー使用量が増加しましたが、CO2フリー電力の導入事業所の拡大により、対2023年度比で減少しております。

※非エネルギー起源のCO2排出量は含んでおりません。

### SOx排出量、NOx排出量(国内)



■ SOx (硫黄酸化物) 排出量 ■ NOx (窒素酸化物) 排出量

工場で使用する原燃料の都市ガス化を推進し、2011年度で切り替えを完了させたことにより、SOx排出量は2012年度より「ゼロ」を継続しております。また、NOx排出量については、大気への排出を抑制する対策を行っております。

### 産業廃棄物発生量、最終処分量(国内)



■ 産業廃棄物発生量(左) ■ 最終処分量(右)

保土谷化学グループは、中期経営計画で「対前年度発生量以下」を KPIとしておりますが、2024年度の総発生量および最終処分量は、 対前年度比でそれぞれ22%、53%の増加となりました。

生産活動の増加、生産品目構成差等の影響によるものではありますが、増加した事実を重く受け止め、取り組みを強化し、産業廃棄物削減に努めてまいります。

 人事総轄執行役員メッセージ

# 人材戦略

### 関連するマテリアリティ

世界的な秩序転換の局面にあって、働く人たちの考え方や労働市場環境

が大きく変化しています。人材を企業価値創出の資本と捉える「人的資本

経営」が定着する中、保土谷化学グループは従来から、まさに人材が価値

創造の担い手であると深く認識しております。「一人ひとりの意識・行動改

革→個人と個人の関係性向上→組織の成長」のプロセスにつながる、人材

に対する投資・施策を推進することで、中期経営計画「SPEED 25/30」を達

成し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現を図ってまいります。

- 働きがいの向上
- ダイバーシティの推進
- 健康経営、労働安全衛生の推進

### 人材データ2024→P.61

### ●働きやすさの向上—健康経営の推進、ワークライフ バランスへの取り組み

保土谷化学グループは、健康増進のための指導・教育、 保土谷化学健康保険組合や産業医との連携等、健康経営 を経営課題と捉え戦略的に実践し、「健康経営優良法人 2025」に認定 (5年連続) されました。

### 人材データの詳細はホームページをご覧ください https://www.hodogaya.co.jp/csr/stakeholder/

また、有給休暇取得率や男性育児休業取得率の向上に 向け、ワークライフバランスへの取り組みを積極的に行っ ております。仕事と生活の調和を図り、役職員全員が心 身の健康を第一に、「仕事のやりがい」 「働きやすさ」=「働きがい」を実感でき 健康経営優良法人 るよう、引き続き努めてまいります。

### 人材に対する2024年度までの主な投資・施策

### 2024年度

- •フレックス制度拡大試行(働きやすさ)
- 「本の要約サービス」導入(人材育成)

### 2023年度

•従業員向け株式給付信託 (J-ESOP) 導入 (2025年度対象拡大) (什事のやりがい)

### 2022年度

- 「テレワーク規程」制定(働きやすさ)
- 次世代経営人材教育導入(人材育成)
- •マルチアセスメント制度(多面評価制度)導入(人材育成、什事の やりがい)

- エンゲージメントスコア測定とエンゲージメント向上に向けた研修開始 (仕事のやりがい、働きやすさ)
- •女性社員キャリア研修開始(人材育成、仕事のやりがい)

### 2020年度以前

- 新人事フロントシステム導入(DX)
- 業績連動型賞与への移行(仕事のやりがい)
- 退職金制度改定(確定拠出型年金(DC)への全面移行)(仕事のやりがい)
- 部門長教育改定(人材育成)
- 人事評価制度改定 (人材育成、仕事のやりがい)
- カムバックエントリー制度導入(再雇用希望者登録)(働きやすさ)

## ■中期経営計画「SPEED 25/30」人事戦略

保土谷化学グループが、中長期的に企業価値を向上さ せていくためには、人的資本の拡充が必須です。そこで、 「自ら学び考え行動できる人材」の採用・育成を推進すべ

> 多様な人材の活用 (ダイバーシティ推進) 健康経営推進、 人事企画 ワークライフバランス対応 適切な 人的リスク管理



取締役兼常務執行役員 佐藤伸一

く、「SPEED 25/30」では、下図の人事サイクルの遂行に

より、「エンゲージメント向上」を図り、「役職員全員が働き

がいを実感できること」の達成を戦略目標としております。

- エンゲージメントスコアの向上 ※エンゲージメントスコアの測定を実施。結果を各組 織のマネージャーに環元し、部下との対話を促す
- 女性管理職比率の向上
- 有給休暇取得率の向上
- 健康経営優良法人認定の継続

# ■エンゲージメントスコアの分析、改善対応

保土谷化学グループでは、「エンゲージメント向上」を 図り、「役職員全員が働きがいを実感できること」の達成 を目標としており、「働きがい」を従業員がどう感じてい るか把握するためエンゲージメントスコアを測定、分析し、 課題に応じた施策の検討、実行に取り組んでおります(海 外派遣者含む)。会社の理念・戦略に対する共感が高い 一方、周囲からの支援、発言・意見に対する評価等に課 題があることから、安心して声を上げられる心理的安全性 の高い職場づくりを目指してまいります。

### 目標 スコアの段階的向上

### 実績 測定開始から向上している項目 (2021年度→2024年度改善率)

| キードライバー:項目    | 初回スコア | 直近スコア | 改善率   |
|---------------|-------|-------|-------|
| 健康:仕事量        | 53    | 59    | 11.3% |
| 組織風土:挑戦する風土   | 50    | 55    | 10.0% |
| 健康:ストレス反応     | 54    | 59    | 9.3%  |
| 環境:ワークライフバランス | 59    | 64    | 8.5%  |

※ ワークライフバランスの向上による仕事量・ストレスの軽減や、挑戦を称賛する風土の 改善が進んでいる傾向が見られる

### ■中期経営計画「SPEED 25/30」における主要施策

「SPEED 25/30」の達成に向け、以下の施策に取り組ん でおります。

### ●仕事のやりがいの向上―多様な人材の活用 (ダイバーシティ推進)

保土谷化学グループは、企業価値向上に向け、厳しい 競争環境におけるイノベーション促進、事業の柔軟な組み 換えおよび変化への対応力強化等を図るため、ダイバー シティを推進しております。特に、女性の活躍推進に向け て、男女を問わず、意識改革のための研修を実施し、全 従業員が活躍できる組織風土作りに取り組んでおります。 また、キャリア採用者と新卒採用者との差を設けることな く、経験・能力・スキル等を総合的に判断して登用を行 い、各々が能力・スキルを最大限発揮し得る環境整備を 進めております。なお、2023年6月の定時株主総会にお いて女性社外取締役選任をご承認いただき、2024年6月 には社内人材から女性執行役員を登用しております。

ダイバーシティ推進により、多様な個性・価値観を持つ 人材が増え、組織の多様性が拡張することから、これに対 応して組織・人材を束ねることが重要ですが、保土谷化 学グループの「PURPOSE (経営理念)」「VISION (目指す 企業像)」は、組織・人材を束ねる機能を十分に果たせる ものと考えております。



状況の詳細はホームページをご覧ください https://www.hodogaya.co.jp/csr/stakeholder/ employee/



### ●仕事のやりがいの向上―自己成長のための取り組み

保土谷化学グループは、人材育成を進め役職員の自己 成長を支援するため、教育体系を整備し、組織における 継続学習の風土醸成、役職員の知的武装促進に取り組ん でおります。

### ■今後の課題と対応策

保土谷化学グループは、「エンゲージメント向上」→「役 職員全員が働きがいを実感できること」を戦略目標として 設定し、各施策に取り組んでおります。また、新たな施策 として、メンバーシップ型にポスト給をプラスするハイブリッド なジョブ型人事制度の導入も検討しております。人事課題

は多岐にわたり、今後人材に関する価値観が変化していく ことも考えられます。情報収集のアンテナを高くし、人材 マネジメントの動向変化をタイムリーに把握した上で、保土 谷化学グループの「PURPOSE(経営理念)」「VISION(目 指す企業像)」を基本軸として変化に対応してまいります。

### VOICE



人事部 N.K.

### 働きがいと成長を両立させ、エンゲージメント向上につながる学びの場づくり

社員研修は、社員一人ひとりの能力開発や成長を支えるだけでなく、働きがいや組織全体のパフォーマ ンス向上にもつながる重要な取り組みです。社員がやりがいを感じながら、主体的に学び続けられる環境 を整えることは、「SPEED 25/30」の達成に向けた人事部の重要な役割の一つだと考えています。

今後は、組織の持続的な発展と競争力の維持・強化に向けて、次世代を担うリーダーの育成に、より一層 注力していきます。あわせて、社員の学びを後押しするための動機づけや仕組みの整備にも力を入れることにより、 働きがいと組織の成長を両立させ、エンゲージメント向上につながる環境づくりを目指してまいります。

# 研究開発/知的財産戦略

### 関連するマテリアリティ

- 気候変動への対応
- 製品・化学物質の安全確保

### 製品の価値および信頼性の向上

### 研究開発総轄執行役員メッセージ



事業戦略のロードマップで目指すべき分野とする5分野に向けて、新製 品を開発してまいります。特に、中期経営計画「SPEED 25/30」において 「先端電子デバイス用材料」「環境対応型の染料」「ポリオール」「バイオ医 薬用材料」「環境重視型の農業資材」といった5つの領域を具体的な事業領 域と設定し、そこで培った技術を柔軟な発想で市場ニーズにマッチさせた 研究開発を進めてまいります。また、それら技術から派生させた新規分野 への取り組みを加速させ、企業としての価値向上につなげてまいります。

取締役 兼常務執行役員 横山紀昌

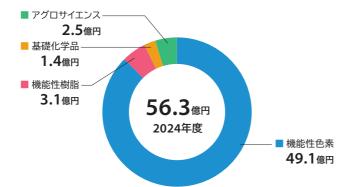
### 研究開発戦略

保土谷化学グループは、10年間のシナリオ「2030年度 のありたい姿」と、中間点としての「2025年度までの目指 す姿」を策定しました。その実現に向け、常に多様化する 社会ニーズをいち早く捉え、さまざまなお客様の異なる ニーズに即応できる研究・開発を進めてまいります。特 に、長い歴史で培った技術から生まれたスキル・ノウハウ を形にすることで、より新しい機能を備えた製品や製造技 術を開発し、「スペシャリティ製品を軸としたオリジナリティ にあふれるポートフォリオと環境に優しいモノづくりで、持 続可能な社会の実現に貢献する企業」の実現に向けた研 究開発を行ってまいります。

また、スペシャリティ製品の創出を通してイノベーション

を促進し、SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつく ろう」の達成にも寄与してまいります。

### 研究開発投資額(セグメント別)



### 「SPEED 25/30」に おける基本戦略

戦略製品のさらなる発展と 新規テーマの育成

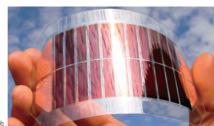
研究開発体制の強化

- 機能性色素材料の新製品創出と発展
- 新規研究テーマの開発ステージへの進展・育成
- 新規研究テーマの持続的な創出活動を展開
- 研究から、量産化のスピーディーな実現を可能とする組織体制の整備

### ●戦略製品のさらなる発展と新規テーマの育成

保土谷化学グループは、これまで100年以上の歴史の 中で積み上げた技術を土台に、筑波研究所、国内三工場 および韓国グループ会社のHCK、SFCを中心とした研究 開発を通じて、戦略製品の拡大と発展を目指しています。 中でも、有機ELを中心として培った独自の技術やノウハ ウを強化・応用することで、ペロブスカイト型太陽電池を 始めとした応用分野への進出や、バイオ分野・半導体分 野の拡充も目指しております。また、機能性色素の応用 展開として、センサー用途で期待されている近赤外線吸 収色素 (NIR) 等の研究開発にも取り組んでおります。

さらに、次世代の新事業の創出に向けて、「新規テーマ 探索プロジェクト」を中心に、「電子・情報」「モビリティ」 「環境・エネルギー」「ライフサイエンス」「農業・食品」分 野において、長期的視野に立った研究開発戦略の構築の ために調査・探索し、その実現を目指してまいります。



ペロブスカイト型太陽電池

### 関連するグループ会社: 保土谷コントラクトラボ株式会社 事業内容: 化学品の分析および研究開発業務受託

### ●ペロブスカイト型太陽電池への取り組み

ペロブスカイト型太陽電池は、2040年の市場規模が全 世界で2兆4,000億円規模に達すると予測されています。 日本でも、例えば第7次エネルギー基本計画において、官 民関係者による三位一体での取り組みによって2040年に は約20GWの導入が目標とされており、国策の一つとし て取り組まれています。

一方で、ペロブスカイト型太陽電池の普及のためにはさ

らなる高性能な材料の開発が不可欠です。保土谷化学グ ループでは、ペロブスカイト型太陽電池の性能を向上させ ることが期待される材料を複数開発しております。また研 究開発においては、産学連携にも取り組んでおり、ペロブ スカイト型太陽電池の研究で著名な宮坂力教授との共同 研究を通じて、複数の共著論文も発表しました。

今後も、研究開発を加速させることでその普及に努め、 また持続可能な社会の実現にも貢献してまいります。

# 事業戦略のロードマップ Al, loT, 5G (or 6G), SDGs 2050年 2030年 2020年

### 知的財産戦略

VOICE

### 知的財産戦略の推進

将来の事業ポートフォリオを考慮し、研究開発成果の迅 速な出願と権利化を推進しております。

情報検索、特許解析に基づくパテントマップの利用や知 財教育等により、特許の質の向上にも注力しており、日経 ビジネスの知財経営ランキングにおいて、2023年と2025 年に、連続して特許価値成長ランキングに掲載されまし

た。特に知財教育では、「権利化を念頭に置いて研究・開 発を行うことが重要」との理念から、自社の事例をケース スタディーとして、最前線の研究員全員を対象に講座を 開催しています。

今後も、グローバルな事業展開への対応のため、国内 外での確実な権利化を目指してまいります。



保土谷化学韓国 Y.H.

### 海外拠点における研究開発と開発営業

保土谷化学韓国 (HCK)では、主に韓国の顧客に対して有機FI 材料の開発および開発営業を担ってお ります。韓国の文化として効率性とスピードが重視されており、海外の顧客に近いこの拠点において、緊 張感とスピード感を持って業務に取り組んでいます。

HCKでは、品質基準の設定や安定的な品質管理も重要な業務のひとつです。 実際に評価したデータを もとに品質管理のスペック基準が作成され、納期を意識しながら安定的かつ効率的に品質評価を進めて います。そうして実際に製品が世に出ていく姿を目にしたとき、大きなやりがいを感じました。

新たな有機EL材料の開発を継続し、付加価値を提供し続けることを通じて、顧客の新規製品において 当社の材料が常に選ばれる存在となることを目指しています。

> 所在地:〒305-0841 茨城県つくば市御幸が丘45番地 TFL 029-858-6886(代表) ホームページ: http://www.h-contractlabo.co.jp/



# ● サステナブルな社会の実現に向けた成長戦略

# 特集 韓国のグループ企業との協業~「ありたい姿」実現に向けて~

保土谷化学グループは、1916年に、日本で初めて電解法苛性ソーダを製造する企業として誕生した後、時代のニーズに 応え、絶えざる革新を通じて、事業の拡大・成長に取り組んできました。そして近年は、目覚ましくグローバル化する経 済に対応するため、国境を越えた開発・営業体制の構築に努めております。特に韓国への投資や韓国との人材交流を図 ることで、さらなる革新や事業の拡大・成長につなげてまいります。

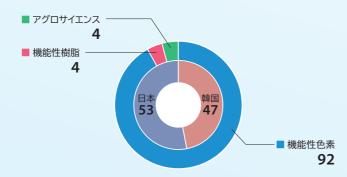
### グローバルな研究体制

保土谷化学グループは、急速に市場が拡大する有機EL ディスプレイに注目するにあたり、その中心的な大手パネ ルメーカーが競う韓国での開発体制の構築に、特に注力 しています。韓国市場に開発拠点を設け、日本国内と連 携することで、有機EL材料の網羅的かつ迅速な提案を実 現し、ディスプレイの未来に貢献してまいります。さらに、 有機ELを中心として培った独自の技術・ノウハウを応用 することで、今後成長が期待されているバイオ・半導体材 料の開発にも着手し、韓国での開発体制の特色を活かし た、新たなポートフォリオの実現にもつなげてまいります。

### ■地の利を活かした韓国の研究開発

保土谷化学グループは、韓国での開発体制構築を重視 することで、基礎出願においては、特許出願件数の比率 で韓国側の占める割合が大きくなっています。今後も、 韓国での開発体制を重視してまいります。

### 2022年度~2024年度の特許出願件数比率(%) (国別・セグメント別)



### 日本と韓国の人材交流制度について

保土谷化学グループは、韓国での体制構築・深化にあ たり、グループ全体として人材交流の活発化に取り組んで います。

人材開発の観点からは、日本の若手研究員を韓国へ短 期派遣し、グローバルな視点で新しい技術や知識を学び 自らの業務に活かすべく、現地実習を行っております。研 究開発部門では、現在、複数名の日本人研究員が韓国に 赴任・勤務しており、韓国の研究員と活発にコミュニケー ションをとりながら、長期にわたる目線で研究開発業務に 取り組んでいます。さらに、グループ全体での研究成果発 表会では、韓国のスタッフが来日して最新の研究トピック を共有しており、その後は、情報共有やグループとしての 一体感の深化のために、親睦を深める場も設けています。 事業部門についても開発部門と一体となり、マーケットで 求められる品質・性能を常にフォローし、日韓共同で開発



営業に関与しております。

今後も、これらのような活発的な人材交流活動を通じ て、事業環境に対応した体制構築・深化に努めてまいり ます。

# ● サステナブルな社会の実現に向けた戦略

# 持続可能な未来につなげる環境配慮型の製品・技術

### ●天然色素

「天然色素」は、自然界に存在する天然由来の素材 を用い、人の安全や環境に配慮された製品です。

食用色素は、食品に彩りを添え、私たちの食生活を 豊かにしております。また、一部の製品は「ハラール

認証」も取得しており、イス ラム圏のお客様からのご期待 にも応えてまいります。

さらに、食品用途に限ら ず、工業用途への展開も進 めております。



### ●メタルフリー アルミ着色用染料

アルミニウムは軽量で強度 に優れ、リサイクルもしやすく、 アルミ着色用染料の需要も 拡大しております。保土谷化 学では、長年の有機合成技



術を活かし、環境と人に優しい染料として、重金属を 用いずに優れた耐光性・染色性を持つ「メタルフリー アルミ着色用染料」を製造・販売しております。環境に 配慮し、耐光性・染色性が高く、多彩な色表現を可能 とするアルミ着色用染料のニーズに応えていきます。

### ●バイオPTG(樹脂材料)

ポリウレタン原料のポリオールの一種である「PTG」は、 "弾性繊維"などの原料として欠くことのできない材料 です。保土谷化学では、主原料を石油系から植物由 来に切り替えることで、環境に配慮しながら、従来と

同等の品質を保つ「バイオ PTG I を日本で初めて開発・ 販売しており、10年以上の実 績があります。さらに、植物 由来の特殊品の開発も進めて おります。



### ●過酢酸製剤

過酸化水素の誘導品である 過酢酸製剤「オキシアタック」 (食品向け除菌剤)を2017 年に上市しております。野菜 や果実、食肉への強力な除 菌効果を持ちながら、使用後



は酢酸と水に分解され、塩素も発生しない環境重視型 製品としてお客様から好評を得ております。

### ◆ODI(ホスゲン誘導体)

剥離剤や塗料、コーティング材の原料である「オク タデシルイソシアネート(ODI)」は、植物油脂を原料 としており、世界各地のお客様からのニーズにお応え しております。

植物由来のため、気候変 動の原因と言われている環境 中のCO2発生量の増加を抑 制しております。

また、2024年4月には、RSPO 認証\*を取得しております。

※RSPO:持続可能なパーム油のための円卓



### ●酸素供給剤(農業資材)

近年、豪雨・台風等の異 常気象が年々増加傾向にあ り、農地等への直接の被害に 加え、湿害等による農作物の 収穫へも影響が出ておりま す。過酸化水素誘導品の農



業分野への展開として、悪天候等により劣化した土壌 中への酸素供給を通じ、湿害対策として農作物の育成 環境を改善するなど、健全な生育を促進する「酸素供 給剤」をお客様に提供しております。農地を汚染する ことのない、環境重視型の製品です。

保土谷化学 統合報告書 2025 34

オハリエース

# 保土谷化学グループのグローバル展開

### 事業総轄執行役員メッセージ



売上高の50%以上を国外向けの販売が占める当社グループにとって、 重要度が増すグローバル市場での成長継続のためには「当社の強み」×「仕 掛け」+「パートナー」の考えで各地域のニーズに対応することが重要です。 これまで、機能性色素セグメントの強化と事業の拡大を目的として、これら に取り組んでまいりました。今後も各事業セグメントと各地域のニーズに対 し、魅力ある「仕掛け」づくりと有望な「パートナー」の獲得により、「SPEED 25/30」に掲げる適切な事業ポートフォリオの構築を進めてまいります。

常務執行役員 中野猛

### 取り組み状況

保土谷化学グループは、グローバルなお客様の多様な ニーズにお応えするため、北米・欧州・中国・韓国・台 湾の5地域に拠点を構え、海外展開を強化しております。 これらの拠点を有効に活用することにより、グループ全体 の海外売上高比率は、2020年の42%から2024年度は 53%に伸長しました。主力製品であるモバイル機器等へ のアルミ着色用染料や、ディスプレイ向け有機EL材料等 の販売が海外で着実に拡大するとともに、ホスゲン誘導 体の海外需要も増加してきております。

韓国のグループ会社においては、有機EL材料の用途拡 大により大きく成長している最中であり、保土谷化学グ ループ全体の利益拡大にも大きく貢献しております。2023 年から韓国で稼働を開始したBioParkを活用し、「診断キッ

ト材料向けオリゴ核酸製品」や次世代医薬品である「核酸 医薬原料向けオリゴ核酸製品」の製造にも取り組んでおり ます。また、成長分野への戦略的投資として、同じく韓国 の忠州 (チュンジュ)と陰城 (ウムソン)に工場を新設し、 独自の応用精製技術を活かした半導体材料への展開も進 めております。

そのほか、機能性樹脂セグメントにおいては、「選択と 集中」を加速化し、植物由来の原料を用いた高機能ウレ タン材料や医薬向けホスゲン誘導体をグローバル市場に 浸透させていきます。今後も、あらゆる分野で「独自の 技術力」と「グローバルネットワーク」を活かしながら、常 に高品質な製品とサービスの提供を通じて国内外のお 客様のニーズに応えてまいります。

保土谷化学グループ地域別売上高構成比

売上高

485億円

2024年度

欧州

3.3%

■北米

2.4%

1.7%

中国

■韓国

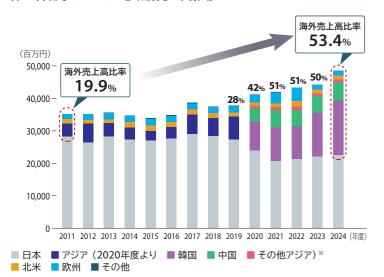
34.4%

11.5%

■ その他アジア

海外計53.4%

### 保土谷化学グループ地域別売上高推移



### ※2019年度まで「アジア」に含めていた「韓国」および「中国」の売上高は、重要性が増したため

### 2020年度より独立掲記しております。

# ● サステナブルな社会の実現に向けた戦略

# 保土谷化学グループの事業概要



# 機能性色素セグメント

https://www.hodogaya.co.jp/products/segment01/



## 3つの強み

保土谷化学のDNAである「有機合成技術」等を駆使し、 グローバルな顧客ニーズと環境対応を具現化する力

有機EL材料の トータルサプライヤーとしての 技術を次世代医薬向け バイオ材料にも展開

メタルフリー化により 環境にも対応した、 世界シェアでトップクラスの アルミ着色用染料

食の安全を支える 天然色素と世界オンリーワンの カラートリートメント染料

### 事業内容

### ● 有機 EL 材料

スマートフォンやタブレット、スマートウォッチ等のディス プレイとしてもその需要が拡大中であり、今後はテレビ や車載用分野への展開が期待されております。また、有 機EL材料の応用技術として独自開発したバイオ材料は、 これまでの「診断キット材料向けオリゴ核酸製品」に加 えて、次世代医薬品である「核酸医薬原料向けオリゴ核 酸製品」へも展開しております。

### イメージング材料

複写機やプリンターの機能発揮になくてはならない重要 な材料であり、OA環境の高精度化に貢献しております。

### ● 色素材料

独自の技術による染料製品が、高品質品として国内外 から高い評価を得ております(アルミ着色用、文具用、 カラートリートメント用、カラーフィルター用等)。

### ● 天然色素

食品に色を添え、食欲を増進させる等重要な役目を担っ ており、保土谷化学はそのパイオニアとして、食品の演 出に貢献しております。また、家電等の着色にも使用さ れており、環境に配慮した用途を拡大しております。

### 申期経営計画の進捗

有機EL材料事業は、スマートフォンを中心としたディス プレイ分野での需要拡大や新製品での採用等により販売 が拡大しております。海外での材料販売の拡大を受け、工 場・設備の新設および増強や、半導体用材料分野での設 備投資を進め、さらなる事業拡大を図ってまいります。

有機EL材料の技術を応用したバイオ事業は、韓国の新 拠点BioParkが昨年稼働開始し、診断キット材料向けオリ ゴ核酸製品の拡販や、次世代医薬品である核酸医薬分野 への新たな事業展開を進めております。

色素材料事業は、アルミ着色用染料の需要が好調に推 移しております。引き続き、安定した供給体制の確立や、 環境対応型製品の開発等による販売拡大に向け取り組ん でまいります。

### 売上高・営業利益・営業利益率



関連するグループ会社: SFC CO., LTD.

事業内容:有機EL材料、電子材料およびバイオ材料等の製造・販売

所在地: 89, Gwahaksaneop 5-ro, Ochang-eup, Cheongwon-gu Cheongju-si, Chungcheongbuk-do, Korea 28122 ホームページ: https://sfc-dye.com/



35 保土谷化学 統合報告書 2025 36

■日本

46.6%



### 保土谷化学グループの事業概要



# 機能性樹脂セグメント

https://www.hodogaya.co.jp/products/segment02/





### 3つの強み

### 「ホスゲン化技術」等を駆使し、環境対応も可能なスペシャリティ品を グローバルに展開できる力

世界トップクラスの 有機合成技術の駆使により 環境への配慮も可能な ウレタン原料

特定化学物質未含有による 環境対応と安全で確実な施工を 可能とする防水材

生産・販売・研究開発の 三位一体活動による ホスゲン化技術を活かした 医薬中間体

### 事業内容

### ●樹脂材料

ウレタンに柔軟性や弾性 (ゴムのような特性) を持たせ るために必要な、PTGと呼ばれる材料が中心となりま す。ウレタンは、衣類、自動車部材、レジャー用品等の 幅広い分野で使用されております。なお、環境に優し く、従来と同等の品質を保つ製品として、主原料を石 油系から植物由来に切り替えたバイオPTGに注力して おります。

### ● 特殊化学品

長年にわたり蓄積してきた有機合成技術や独自のホス ゲン化技術等を駆使した中間材料や添加剤です。医薬 品、化粧品分野など、さまざまな分野のお客様の特殊 な要望に、きめ細かにお応えしております。

### ● 建築材料

他社に先駆けて開発されたウレタン塗膜防水材がその主 軸です。ウレタン塗膜防水材は、オフィスビル、学校の屋 上や大型店舗の立体駐車場の屋上防水等、幅広く使用 されております。

### ●中期経営計画の進捗

樹脂材料事業は、一部製品で販売増があったものの、 ウレタン材料の市況低迷の影響が継続し減収となりまし た。今後は、バイオ化製品等の販売拡大による収益力強 化を目指してまいります。

特殊化学品事業は、剥離材および医薬向けの需要が海 外で回復の一方、その他用途で需要が減少し減収となりま した。今後は、特に需要好調の特殊イソシアネートの増設 検討や、将来を見据えて設置した試作品生産用ベンチス ケール設備の活用で新規市場開拓を推進してまいります。 建築材料事業は、新製品の堅調な販売や大型施設等で

のウレタン防水工事の受注により増収となりました。今後 とも、次世代防水材等を販売の軸に、着実な事業強化を 目指してまいります。

### 売上高・営業利益・営業利益率



関連するグループ会社:保土谷建材株式会社 事業内容: 土木・建築材料の製造・販売

所在地:〒105-0021東京都港区東新橋一丁目9番2号 TEL 03-6852-0478 (大代表) ホームページ: https://www.hodogaya-cp.com



# 基礎化学品セグメント



# 3つの強み

### 長年培った過酸化水素の「製造技術」を基に、衣食住すべてのステージでの 新規用途へ展開する発想力

蓄積してきた経験・知見に基づく 過酸化水素製造技術により、 食品分野から半導体まで 多種多様な分野へ展開

漂白剤、洗浄剤、食品殺菌、 動物薬等、幅広い分野への 誘導体の展開を実現する 研究開発力

クリーンな物性を活かして、 土壌改良等、地球環境に貢献する 用途展開を可能にする 発想力

### 事業内容

- 保土谷化学では50年以上にわたって、過酸化水素お よびその誘導品を開発、製造、販売しております。
- 過酸化水素は、水と酸素に分解するという特徴から、 環境に優しくクリーンな製品として、幅広い用途で皆 様の生活をサポートしております。過酸化水素は、従 来からの紙パルプの漂白や工業薬品向けだけではな く、動物薬などへの展開により、積極的に販売分野 を拡大しております。
- 過酸化水素の誘導品として、過炭酸ナトリウムと過酢 酸があります。過炭酸ナトリウムは、漂白剤や洗浄剤 として使用されており、過酢酸は、日本で初めて食 品分野向けの製造許可を取得し、現在その展開を加 速しております。

### 申期経営計画の進捗

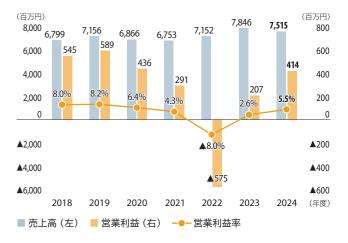
過酸化水素は、紙パルプ向けでの販売増が見られたも のの、半導体向けでの需要回復が遅れたことにより、前 期並みとなりました。

過炭酸ナトリウムは、漂白剤向けで減収となりましたが、 昨年度改善した収益体制の維持・拡大に向けて、今後も 適切な設備投資と拡販活動を進めてまいります。

過酢酸は、サニテーション用途での採用範囲の拡大と、 食品用途での新規顧客獲得に向けたアプローチに取り組 んでまいります。

今後とも、市場の需要動向を見据えた各種コストダウン の推進と販売拡大により、さらなる収益の最大化を目指 してまいります。

### 売上高・営業利益・営業利益率



関連するグループ会社: 桂産業株式会社

事業内容: 化学品の仕入・販売

所在地:〒105-0021東京都港区東新橋一丁目9番2号 TEL 03-6852-0490 (大代表) ホームページ: https://www.katsura-ks.co.jp/





### 保土谷化学グループの事業概要



# アグロサイエンスセグメント





# 3つの強み

## 「製剤化技術」を多様な生活シーンに役立つ魅力ある製品として 実現する開発力

ニーズに合わせた 新製品開発による 国内シェアトップクラスの 家庭園芸用除草剤

生活シーンを支えるため 常に新しい製品を生み出す 発想力と提案力

農業用酸素供給剤等の展開により 農業を取り巻く環境の改善を 実現する研究開発力

### 事業内容

- アグロサイエンスセグメントの製品は、農耕地から生 活環境、鉄道、山林、ゴルフ場での雑草、病害虫管 理、環境保全に至るまで、幅広い分野で貢献してお ります。
- 自社原体を中心とした各種原体を活用し、現地、お 客様のニーズに合わせ使いやすさと安全性を兼ね備 えた新たな製剤開発を継続しており、とりわけ、家庭 園芸や緑地管理で使用される除草剤は、業界トップ クラスのシェアを誇ります。
- 気象条件等により悪化した土壌環境を改善し、作物 の安定生産につなげていくための土壌改良資材とし て、酸素供給剤の製造ならびに市場開拓も行ってお ります。

### ●中期経営計画の進捗

鉄道用除草剤や家庭園芸向け除草剤の需要が好調に推 移するとともに、ゴルフ場向け除草剤での需要が回復し、 大幅な増収となりました。

基礎化学品およびアグロサイエンスのセグメントにまた がる部分では、過酢酸の用途開発における市場認知の拡 大活動等を進めております。また、増強した農業用過酸化 物生産設備の活用による事業拡大と、さらなる増強を視 野に入れた営業活動を展開してまいります。

今後も事業収益を維持拡大すべく、安定供給体制の構 築や新規商流の開拓、他社との協業等も含め、魅力ある 商品の投入に向け、取り組んでまいります。

### 売上高・営業利益・営業利益率



関連するグループ会社:保土谷UPL株式会社

事業内容:農薬の製造・販売

所在地:〒105-0021 東京都港区東新橋一丁目9番2号 TEL 03-6852-0500(大代表) ホームページ:http://www.hodogaya-upl.com/

関連するグループ会社: **保土谷アグロテック株式会社** 事業内容:農薬の製造・販売

所在地:〒105-0021 東京都港区東新橋一丁目9番2号 TEL 03-6852-0510 (大代表) ホームページ : http://www.hodogaya-agrotech.co.jp/





# 物流関連セグメント

https://www.hodogaya.co.jp/products/segment05/



# うつの強み

### 化学メーカーグループとしての危険物・化学品の「取り扱いノウハウ」を活かし、 安心・安全を運ぶ力

化学品、医薬品等の 危険物取り扱いノウハウを活かし、 幅広い物流事業領域に拡大

横浜・郡山・南陽の 好立地を活かした エリア最大規模の 保管・陸海空輸送サービス

南陽事業所における ISOタンクコンテナデポを活用し 国際複合一貫輸送を提供

### 事業内容

- 物流関連事業は、保土谷化学グループが100年以上 蓄積してきた、危険物・化学品等の取り扱いのノウハ ウを活かしており、化学業界を超えた幅広い分野の お客様から評価をいただいております。
- ●横浜、郡山、南陽の3ヵ所に大規模設備を保有し、特 に、横浜営業所は日本を代表する横浜港の近隣という 好条件から、輸出入の拠点として多くのお客様に活用 いただいております。郡山、南陽においても化学品、 また重量物、機械、プラント等、貨物に適した保管・ 輸送サービスを行っております。

● 2021年10月より、南陽営業所において、国内では稀 少な、危険物・毒劇物のISOタンクコンテナを取り扱 う保管・加温事業を開始いたしました。

### 申期経営計画の進捗

輸出等の荷動きの堅調な推移や、国内における危険物 保管事業での取り扱い増加により、増収となりました。引 き続き、事業所ごとの重点施策に取り組んでまいります。

郡山では、設備投資による保管温度管理品の獲得を進 めております。横浜では、立地の良さを活かして優良商材 案件や輸出入案件の取り扱いを増やすことにより、収益 効率化を図ります。南陽では、2021年10月より開始した ISOタンクコンテナ保管事業の拡大を目指してまいります。

今後とも、化学メーカーにおける物流事業として、危険 物・毒劇物の取り扱いノウハウを活かした事業展開と、さ らなる顧客獲得に向け、取り組んでまいります。

### 売上高・営業利益・営業利益率



関連するグループ会社: 保土谷口ジスティックス株式会社

事業内容: 倉庫業、貨物運送取扱業

所在地:〒105-0021 東京都港区東新橋一丁目9番2号 TEL: 03-6852-0520(大代表) ホームページ: https://www.hodogaya.co.jp/hlc/

